

○徳島市の取組全般に関する意見

No.	意見
1	<p>施策評価シートのR6数値がまだ出ていない指標については、「－」で表示されているが、各施策において、過半が「－」の場合は、全体の評価を行うことが困難であると思うので、暫定的記入や未定とする方がよいのではないかと。 徳島市を取り巻く社会経済情勢は、現在、大きく早く変革しており、迫る課題に対応した事業展開が不可欠であり、当計画や成果指標、目標値についても、変更することを躊躇せず、必要に応じ、適時適切に見直しすることが重要である。</p>
2	<p>9つの総合的な指標の多くは、概ね順調に実績を積み重ねており、一定の成果が認められる。全国の自治体においても、人口減少への対策に積極的に取り組む姿勢がうかがえる。こうした状況の中で、基礎的な取組に加え、地域の特性を活かした独自の施策を展開することが、今後ますます重要になると考えられる。 徳島市における基本的な取組の一つとして、若者が就職先を選ぶ際に重視する要素、特に賃金面の環境整備が求められる。具体的には、所定内給与額における男女間の格差の是正や、全国的に下位に位置する大卒初任給の改善が課題である。 また、関係人口の拡大に向けては、「ふるさと住民登録制度」のような仕組みの導入・支援を検討してはどうか。たとえば、週末や長期休暇の際に当地で過ごしてもらう“セカンドホーム”としての位置付けを提案し、「別荘」的な魅力として発信していくことも一案である。</p>
3	<p>総合的な成果指標について、各指標の動向を踏まえた「分析」がなされている点は、今後の対策に資する意味で大変重要と思われる。なお、可能であれば、指標ごとの分析のみならず、各指標を踏まえた総合的な分析があってもよいかもしれない。理由は、各指標が相互に関連していたり、原因⇒結果の関係になっていると推察されるものがあるためである。</p>
4	<p>評価方法に対する全体的な意見について、各施策の評価が、KPIの進捗状況の数(配分)に基づきA～Dでランク付けされている。客観的な評価という半面、次のような課題があると思われる。 第1に、評価時点で値がまだ把握されていないKPIがある場合、それ以外のKPIの進捗状況のみで評価を行うことが難しくなるケースが出てくる。後日、すべてのKPI及び進捗状況が揃った際に評価が変わる可能性がある。 第2に、施策によってKPIの母数、そして1つのKPIの重みが違うため、施策間で評価の価値が異なってしまう。 第3に、KPIの「進捗状況」の評価が客観的な基準に基づくものではない場合、それらを二次的に客観評価したとしても、最終的な評価の客観性はあまり高まらない。 客観的な評価は重要ですが、無理をする必要はないと思うので、また次年度ご検討いただきたい。 なお、各担当課さんが「進捗状況(順調～不調)」を評価される際に、KPIの値がどの程度考慮されているのかわからないが、関連事業の進捗評価と、KPIの進捗評価は、明確に独立させて分ける方が、その違いが理解しやすく、より客観的に評価できると思われる。</p>
5	<p>資料を読むと、各部署の担当職員の方は、目標達成のために尽力されていることは分かるが、全体としては徳島市の人口減少や中心市街地の経済の地盤沈下がどんどん進んでいることに歯止めがかかっているようには感じられない。徳島市だけで解決できる問題ではないのはわかるのだが、四国などの県の県庁所在地より残念な街と感じられるのが残念。行政というより政治の責任、その選択をしている市民の責任かもしれないが。</p>
6	<p>にぎわいや活気、魅力的な店舗、まちなか歩行者通行量、ビジネス宿泊者数、新卒者の県内就職割合と並べて思うのは、しっかり賃金を出せるしごとの創出を叶えていただきたいということである。行うは難しは承知であるが、社会課題先進県でもある徳島県を中心とする徳島市から社会課題解決型の先進的な試みに挑戦していただきたい。</p>